

# 大分県東国東郡姫島村における 祝言のあいさつ

井上博文

## ○はじめに

1. 対象地の地理的環境；仏の里として有名な国東半島の沖合い5kmに浮かぶ、瀬戸内海の西端に位置する周囲19km余りの小島。姫島小唄に“瀬戸の姫島、緑の小島、通い船なら瀬一里”と歌われている。
2. 対象地の社会的経済的環境；まとまりのある漁業社会。若者も島内に多く残り漁業関係の仕事に従事している。
3. 生業；沿岸漁業を主とする漁業の島。車えびの養殖では生産量日本一を誇っている。農業もわずかに営まれている。
4. 交通；国見町の伊美港よりフェリーにて一日11便、運行所用時間25分。
5. 人口；人口約3,400人。
6. 調査年月日；1991.2.14～2.15の2日間。
7. 教示者；高橋辰巳氏 (m.T.4) (\*1) 農業 奥さん同席  
小笹 貢氏 (m.T.14) 民宿  
小笹スエコ氏 (f.S.2) 民宿 貢氏の奥さん  
木戸富貴氏 (f.T.10) 商店経営  
松原藤三郎氏 (m.S.4) 商店経営
8. 調査者；井上博文、調査場所；いずれも教示者宅。
9. 調査方法；配布の調査要項に従い質問法によった。ただし話題の自然な展開を損なわないよう配慮した。録音あり。

## [1] 結納授受のあいさつ (\*2)

1. 仲人 (\*3) が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。  
○イー (orケッコーナ) ハナシガ (\*4) デキテー オメデトゴザイマス。  
(m.T.14)  
いい (or結構な) 話しができておめでとうございます。  
<中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>
2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつをしますか。  
○ア ゴクローサンデゴザイマス。ヨロシユ オネガイシマス。  
(m.T.14)  
あ、ご苦労さまでございます。よろしく申し上げます。

- <中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>  
 3. その時の新婦のあいさつ。  
 特になし。

[ 2 ] 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁<sup>(\*5)</sup>をもらうことが決まった家の人に道で出合って、近所の人たちはどのようなお祝いのあいさつをしますか。

○オメデトーゴザイマス。コンダ イーハナシガ デキタンヤ ナー<sup>(\*6)</sup>。  
 (f. S. 2) おめでとうございます。今度はいい話(結婚話し)ができたんだねえ。<中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

2. 嫁をもらう家的人是、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

○ヘー アリガトゴザイマス。(m. T. 14)  
 はい、ありがとうございます。<中年層以上><上品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

[ 3 ] 嫁を出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことが決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

○オメデトーゴザイマス。コンダ イーハナシガ デキタンヤ ナー。  
 (f. S. 2)

おめでとうございます。今度、いい話(結婚話し)ができたんだねえ。  
 <中年層以上><中品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

2. 嫁に出す家的人是、そのあいさつに答えて、どのようなあいさつをしますか。

○ヘー アリガトゴザイマス。(m. T. 14)  
 はい、ありがとうございます。<中年層以上><上品><ややかしこまり><中待遇><一般的>

[ 4 ] 結婚式当日のあいさつ<sup>(\*7)</sup><sup>(\*8)</sup><sup>(\*9)</sup><sup>(\*10)</sup>

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは(親戚以外)、どのようなあいさつをしますか。

- 1-1. 新郎の父親にはどのようなあいさつをしますか。

○ホンジツワ オメデトーゴザイマス。オヒヨリガ ヨーテ ヨカッタ

ネー。オゴチソ ナリニ キマシタ。(orエンリョ ナク ヨバレテ  
キマシタ。) (f.S.2)

本日はおめでとうございます。お天気が良くてよかったね。ごちそう  
になりに来ました。(or遠慮なくよばれてきました。)

<中年層以上><上品><ややかしこまり><上待遇><一般的>

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○オーキニ アリガトゴザイマス。(f.S.2)

ありがとうございます。<中年層以上><上品><ややかしこまり>  
<中待遇><一般的>

2-1. 新婚の父親にどのようなあいさつをしますか。

○イーコト デキタケド サミシユー ナル ナー。(f.S.2)

いいこと(結婚)ができたけど寂しくなるね。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

○ハー マー ウトゥクシュ デキタ ナー。(f.T.10)

はあ、まあ、きれいにできたねえ。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

2-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

○オーキニ アリガトゴザイマス。アゲナ ムスメジョーン モライテガ  
アツテ ヨカッタ。(f.S.2)

ありがとうございます。あんな娘の貰い手があって良かった。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[5] 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時<sup>(\*)</sup>、姑はどの  
ようなあいさつをしますか。

○コガーン ヨメジヨ デキタンジャ。ミチエオクレー。タノム デー。  
(f.T.10)

このような嫁女ができたんだ。見ておくれ。頼むよ。<中年層以上>  
<中品><親愛><中待遇><一般的>

2. そのあいさつに答えて、近所の人にはどのようなあいさつをしますか。

○ハー イー ヨメサンノー モライ データ ナー。ウツクシュ  
デケタ ナー。コッチコソ タノム デー。(f.T.10)

ああ、いい嫁さんを貰うことができたねえ。美しくできたねえ。こっ  
ちこそ頼むよ。<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[ 6 ] 嫁を迎えた家の人へのお祝いのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どのようなあいさつをしますか。

○マー コナイダ オーキニ。ヨバレチェ ナー。マー アンタ  
アガナ コトジャー オーゴトジャッタ ワー。(f.T.10)

まあ、この間はありがとう。(結婚式に)呼ばれてねえ。まあ、あなた、あのようなことでは(結婚式が盛大であったこと)大変なことだったねえ。<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

○コノ アイダワ ドーモ ゴチソーニ ナリマシタ。ニギヤカナ  
シューゲジャッタ ナー。ウツクシー ヨメサンガ デキタ ナー。  
(f.S.2)

この間はどうぞもごちそうになりました。にぎやかな祝言だったねえ。美しい嫁さんができたねえ。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

2. 父親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○イエイエー モー ホンノ ナー。キモチダケデー ナンニモ  
イーコト デキンデ ナー。(f.T.10)

いえいえ、もうほんのねえ。気持ちだけでなんにもいいことが出来なくてねえ。<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

○ニギヤカニ ヤツチェックレテ イオーチェックレテ オーキニ。  
(m.T.4) にぎやかにやってくれて祝ってくれてありがとう。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[ 7 ] 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

○タイヘン オシエワニ ナリマシタ。ゴクロー カケテ ドーモ ア  
リガトゴザイマシタ。(m.T.14)

たいへんお世話になりました。ご苦勞をかけてどうもありがとうございました。

<中年層以上><上品><かしこまり><上待遇><一般的>

2. 仲人は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○マ ヨロシユ ヤツチェックレテ。テオチ アツヤローケド マー  
ヨカッタ ナー。ハナシガ ウマク イッテ ヨカッタ ナー。

(m. T. 14)

まあ、よろしくやってくれ。ておちがあっただろうけどまあ  
(うまく行って)よかったね。話しがうまく行ってよかったね。  
<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[ 8 ] 嫁のはじめての里帰りのあいさつ (\*12) (\*13)

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

○チヨイト マツバラ イチェクル デー。(f. T. 10)

ちょっと松原(嫁の里の地名)行ってくるよ。<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

2. 両親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

○ハーイ イチェオイデー。イー サカナヤホデ モツチェ イケ。

(f. T. 10) 早く行っておいで。いい魚だから持って行け。

<中年層以上><中品><親愛><中待遇><一般的>

[ 注 ]

(\*1) 記号はmが男性、fが女性を示し、M、T、Sはそれぞれ明治、大正、昭和生まれを、その次の数字は生まれた年を表している。したがって、(m. T. 4)は男性で大正4年生まれであることを表している。なお、文例の後にこの記号で誰の教示によるかを示している。

(\*2) 結納に相当することをスミダケ・スミザケ(寿酒?)でキメノサカズキをする。仲人と男親(オトコオヤ)がヨバレルだけで(昔は)婿はいない。新婦の方はオジサンオバサンキョーダイ<親の兄弟・姉妹>が座にいる。スミザケが終わっても両家はまだ行き来はしない。

スミザケの時に婿方から嫁方へ持っていくものとしては、トメソデ(祝言の時に着る)、ゾーリ(一足)、タビ(一足)、モンツキ(一重ね、白、黒のもの)、この他に料理の材料としてサカナ(普通はタイ)、ヤサイ、コメ、サケ(一升)などであり、お金は持っていかない。

これらは午前中にナコードサンの嫁さんが一人で持っていく。

○オゴメーン キョーワ スミザケデ ナー。オメデー ゴザイマス。

(f. S. 2) ごめんください、今日はスミザケでねえ。おめでとございます。

と言うと、嫁さん方のオカーサンが、

○マー オーキニ オゴクロヤ ナー。(f. S. 2) まあ、ありがとう、

ごくろうさまだね。

と受け取る。

晩に仲人と男親とがよばれる。嫁の家ではそれまでに料理しておく。しかし、今では島の中の仕出し屋や旅館で行うのが一般的となった。

○イマワ モー スミダケデ ミンナガ バート イッショニ  
イッテ リョーホガ イッショニ アツマッテ タベル。(f. T. 10)  
今はもうスミザケで皆がぼっと一緒に行って両方が一緒に集まって  
食べる。

(\*3) 仲人は普通ナカダチ、ナコード(サン)であるが、二人の仲ができるまでの段階に至るまで、幾人かの活躍がある。相手の気持ちを確かめてくれるように頼む人をナカモチと言う。何でも相談できる本当の友達(キョーダイミタイナヒト)に依頼する。正月やらお祭りなどの村の休日や時化で漁ができない日に、

○チンカンカー セケンバナシオ スルスル 下ー カー。(m. T. 14)  
なにやかにや世間話をしながら(あいつは)どうか。

と尋ねる。男のほうに娘の方に本当に結婚するかどうかを聞きに行くこと、またその役を担う人をシタネセ、ワキロオシ(脇楢おし)と言う。

また、結婚相手が未定の場合、シタナコード・ヒタナコード(下仲人)に頼む。これは女性の仕事で、ふつう男の方のオバサンなど悪意な人で男性はしない。例えば次のようにさぐりをいれてもらう。

○ドコソコデ ヨメサンノー モラウチェーンジャガ アンタガタ  
ドゲ カナー。(f. T. 10) どこそこで嫁さんをもろうと言うんだが、あなたの家(娘さん)はどうかね。

○オマエーントコ ヨメジョ マダ モロチョラーン ネン。(と言われ)  
→ドッカ ヨメジョー アレーー モラウンジャ。(と応える)  
(m. S. 4) お前のところ、嫁をまだもらっていないんだ。

→どこかに嫁があればもらうんだが。

また嫁をさがしてくれと頼むときには、例えば、

○ヨメジョガ ホシーンジャケド ナカナガ チカズキガ デケンノヤ。  
シェワシテクレナリー。(m. S. 4)

嫁をさがしてほしいのだが、なかなかチカズキ(女性と親密になること)ができないんだ。世話してください。

いよいよ結婚となるときに依頼するのがホンナコード(本仲人)である。

「ジカタ<本土の>は二組あるが姫島だが一組」との説明があり、婿方、嫁方あわせて一組の夫婦だけである。組内の有力者に依頼するのが普通。

( \* 4 ) 「イー ハナシ」は結婚関係以外では使わない。したがって「イー ハナシ」と言えば結婚に関することになる。

( \* 5 ) 嫁をヨメジョ、婿をムコジョとも言う。また、結婚式の時、着付け等々の支度のテゴ(手伝い)をする、嫁の女の友達をネホベー・ネホベトと言う。彼女は恋の橋渡しもする。

( \* 6 ) 文末詞「ナー」の待遇品位は「親しい間での上品」、ちなみに「ノー」は「やや下品」、「ネー」は「共通語的で上品」である。

( \* 7 ) スミザケ<結納>から祝言まで間がある場合にはカタキヨビというものをする。どちらかに不幸(フコーゴト)があったり、「コトシャトシガ ワルイ」(男は25、28歳で女は19歳)といった時に、「イキキオ サシエタイカラ」ということで行う。いわばカリシューゲン(仮祝言)・コシューゲン(小祝言)のようなものである。

○リョーホーガ アツマッテ ヤッパ オジサンオバサンガ  
ジューンブ ドッチモ ナ。(f.T.10)、両方が集まってやっぱり(結婚式のように)おじさん、おばさんが全部どっちもね。

これが済むと両家は行き来かをし、道で会っても挨拶をするようになる。

( \* 8 ) 嫁の家に嫁を迎えに行くと、嫁の到着までタルノツカイ(樽の使い・近所の人で酒の強い人—多くは若者—に頼む。)が嫁の先触れとして婿の家に行く。婿方ではしこたま酒を飲ませて酔いつぶそうとする。

シューゲン(祝言)<結婚式>の料理として必ず用意するものは、タイメン(饅頭)、これは(「めでたい」と「両家の対面」ということで縁起がいい。イトコニといってせんざいのようなもの(アズキとダンゴが入っている)、この二つに加えて昔はアサリガイノスイモン(あさり貝の吸物)、ちょうつがいを切ったあさり貝が2個入っている。ちょうつがいを切っているから、口を開けないということから、

○オナゴワ ヒトン カタン イッテモー バリバリ バリバイ  
クチオ ハジカンヨーニ ホイチェ カタホーモ クチオ ツムッチョ  
ン。(m.T.14) 女は人の家に行ってもぼりぼりぼりばい口をはじかないように、だから(あさりの貝殻の)かた方も口を閉じている。祝言が終わって嫁の方のお客の帰りがけに玄関で酒をふるまうことをタチオミキと言う。

○イーゴト ユーンジャ ナ。グジュグジ グジグジ ユーカラ  
キゲンナオシニ サケオ アンデ カエッテ クレー。(m.T.14)  
文句を言うんだね。ぐじゅぐじぐじぐじ言うから、きげん直しに酒を飲んで帰ってくれ。

と玄関でドンブリで酒を飲ませる。しかしすでに相当酔っているからほとんど飲めず、こぼしてしまう。

- (\*9) 祝言の明るる日の朝のうちに、婿の方の母親とオバサンノキョウダイ<母親の姉妹>が嫁の実家に挨拶に行くことを、レーニイク・オレイと言う。三人程の女性ばかりで行き、男は行かない。もし姉妹が無ければニーサン(兄)のヨメサンが行く。この時はなにも持っていかない。

○ウチカラ モーシコ<sup>ン</sup>ダ ハナシオ ウケテ クレテ アリガトゴ<sup>ダ</sup> イマシタ。(と言うと) →ソゲマデ センデ ヨ<sup>カ</sup>ッタ ノ三。

(と応える)(f.S.2)こちらから申し込んだ話をうけてくれてありがとうございました。→そんなにまでしないでよかったのに。

- (\*10) 結婚式の翌日にマナイトバライ(まな板払い)を婿の家で行う。マナイトバライは現在でもするが場所は仕出し屋や旅館で行うのが普通になった。仲人、親の兄弟姉妹、親戚、ダ(ザ)モチ(座持ち)(婿の友達で結婚式のときの接待係を務めてくれた人)、「ホントニ ミウチノゴトアル トモダチンジョー(m.T.4)」などを招待する。婿の父親は例えば、

○シユーゲンノ トキャ <sup>ゴクロー</sup> カケタ ナー。マー ドッサイ ノー<sup>ジエ</sup>クレー。(m.S.4)

祝言の時にはご苦労かけたね。まあ、たくさん飲んでおくれ。

というような挨拶をする。

- (\*11) ミツメアルキ・ミツメと言ひ、午前中に神社(オミヤサン)とお寺(オテラサン)、親戚の家へ姑が連れて歩く。戦前には、紙に包んだ五厘か一銭かを姑が持っており、カドカド(道の曲り角)に待っている近所の子ども達にテガカリニ(手渡し)全員に与えていた。また置かれているお椀の中に入れることもあった。

嫁連れて親戚を回っている時、それを見つけた人は、

○ヨメジョガ トーリヨ<sup>ン</sup> ゴー。ヨメジョジャガー デラン カ。

デラン カエー。(f.T.10)お嫁さんが通っているぞ。お嫁さんだが出ないか。出ないか。

と大声で近所の人を呼ぶ。その声を聞きつけると、「ゲタモ ハキコナサンゴト イソイデ(下駄も履けないように急いで)」「ハダシ ナランバカシー トビオリテ イキオルワ ナー。(裸足にならんばかりにとび降りて行っているよ)」という位に行動する。嫁を見た人は

○ハー モー ヨメジョ ミタデ モー ハラガ フト<sup>ツ</sup>タ。コーンパンナ ヨメシャ イラー<sup>ン</sup>。(f.T.10)はあ、もうお嫁さん見たか



ら、もうおなかがいっぱい。今晚は夕飯はいらない。  
などと言う。その時、嫁ばかりではなく、留袖を着て美しくして一緒に  
歩いている姑にもホメコト（誉め事？）で、

○バーサンモ シッカイ イー デー。（f. T. 10）

ばあさんもなかなかいいよ。

と声をかける。

（\*12）里帰りといっても姫島の中で結婚することが普通であったため（姫  
島の盆歌にも、「よその人には、はや惚れするな、末は茶のかず、捨て  
られる」と歌われ気心しれた島の人どうしの結婚がほとんどであった）、  
帰ろうと思えばすぐ帰れたので、ことさらあらたまって里帰りというこ  
とは意識しなかったとのことである。

○マー アンタ。イッタ アクルヒデモ アンタ。ヨージガ アリヤ  
サッサ カエルシ ネー。ヨメサン アクルヒデモ トットコ  
トットコ アンター ジテンシャ カエッテ イクンジャカラ。

（f. T. 10） まあ、あなた。（嫁に）行った明るる日でもあなた。

用事があればさっさと帰るしねえ。嫁さん、明るる日でもとっとことつ  
とこあんた、自転車帰って行くんだから。

（\*13）結婚式から一週間めぐらいに嫁が里の家に帰り、ムコサンタ  
チノホー（婿さん達の方・婿、両親、仲人など）を招待することをムコ  
ノヒダナオシ・ヒダナオシ、ヒザオナオスと言う。

○イママデー シラーン ウチニ イチェ ヨメサンガ ゴッキージャ  
チューカラ。（m. T. 14） 今まで知らない家に行って、嫁さんが大  
変だというから（家に帰ってゆっくりする。）

実家ではブチアタハナシくざっくばらんな話しをする。例えば、母親  
（カーチャン）どうしが、

○ヨメガ ウマク ツトマツチョルヤロ カ。マー ヨロシク  
オシエチ ヤッチョクレー →○ヤー ダイジヨーブジャ。ソー  
シンパイ センデモ イー。ウマク ヤルヨル デー。（m. T. 14）

嫁がうまくつとまっているだろうか。まあ、よろしく教えてやってく  
れ。（と言うと） →いや、大丈夫だ。そう心配しないでもいい。

うまくやっているよ。（と応える）

などと話す。

（いのうえひろふみ 広島大学文学部助手）